

### 地域づくりのきっかけ

当法人は来年度で設立10周年を迎えます。その活動テーマに「宇宙生まれ地球市民くふるさと地球！」を掲げています。これは地球を大切に、当法人の事業内

私たちヒューマンコミュニケーションは、10代・20代の若者を中心に平成14年に群馬県藤岡市で結成されました。平成13年に群馬県で国民文化祭があり、その中の取り組みとして群馬大学の大学祭を国道17号線の県庁前通りで開催する事業が立案されました。他大学の大学院生だった私もその事業に協力する事になり、そこで屋台協議会という組織を設立し、2日間で7万2千人を集客しました。



ヒューマンコミュニケーション 清水一憲さん

### 地域づくりのきっかけ

その前段階で、大学1年生の頃からゴミ拾いをしていたのですが、何か社会に影響を与えようという考えもなく、ただ一人でずっと黙々とゴミを拾っているだけだったんです。でも、国民文化祭の経験を元に、地域づくり団体が藤岡にもあっていいんじゃないかなと思いついて、それが地元での地域づくり団体設立に繋がっていききました。

### エコステーションの設置

地域おこし、まちづくりということでは、ららん藤岡などを中心

として定着したエコステーションを祭り会場の4箇所に設置して、清掃活動に取り組んでいます。おかげさまで、3年前から千人単位の清掃隊が組めるようになり、非常に綺麗な祭りが実施できるようになってきました。こうして若者達や市民がゴミ拾いを通じて郷土の祭りに参加した事は藤岡市からも高い評価を受けました。

また、集まったアルミ缶やスチール缶、雑誌の収益金はカンボジアの学校建設資金に、ペットボトルキャップの収益金はアフリカの子ども向けのワクチンに、といったように、国際貢献も行っています。このような運動を今後は他自治体にも周知し、拡大させていきたいです。世界に貢献しながら、国内の二酸化炭素を削減し、地域の人々の良心を滋養する。それがエコステーションだと思っています。



容自体にこの概念を盛り込むために明文化したものです。

昨今の報道等において、地球温暖化対策は緊急の課題であることは言うまでもありません。それは他人事ではなく、公益を推進する市民法人として、また明日の社会を担う若い世代として、更に若い世代も環境保全をテーマに事業に巻き込んでいく。そうした活動そのものを同テーマにおける青少年育成の視野から推進しています。

また、地方は若い活力を求めています。若い世代は地方から流出している状況があります。私たちは、生まれ育った故郷を大切に思い、具体的に活動し、その活動をホームページに掲載し、様々なメディアに取り上げてもらいなが

として、群馬モーターショーやLOVEフェスタなどのイベントをやらせていただきました。ららん藤岡はかつては赤字で閉鎖も囁かれていたんですが、ここが駄目だったら藤岡は沈んでしまうなどという思いがあったので、市民事業を次々に開催していききました。

現在は黒字転換し、去年は関東の好きな道の駅の1位にも選ばれました。ですから、ららん藤岡の活性化という部分では、私がやるべき目的を達成したのかなと思っています。

また私たちは藤岡まつりにおいて、ゴミ収集分別所であるエコステーションを出展しています。祭りにおいてはゴミ対策と若者参加が地域を問わず、共通の課題です。そこで特別事業として、この企画を立ち上げたのです。キャッチコピーは「日本一綺麗な祭り会場」です。藤岡まつりの開催規模や実施面積は全国各地のお祭りの中で言うと、真ん中より下だとも思います。ただ、小都市であることをもって、大都市に勝てる部分があるとするならば、多分「日本一綺麗な祭り」というその目標だと思つたんです。現在は、毎年の継続事業

ら発信してきました。こうした取り組みに若い世代が影響を受け、その波が少しでも広がることを願っています。山を愛し、川を愛し、故郷を愛し、人を愛し、日本を愛し、世界を愛する私たちはこれからもその気持ちを大切にしながら前進していきたいです。

### 藤岡まつりから世界へ

これからは、藤岡まつりを日本一綺麗な祭りにし、観光産業の振興に協力して国内外を問わずに日本に人を集めていきたいと考えています。そして、そこから派生したモノとカネを世界中の子どもたちに贈りたいと思っています。

また、今の世の中には自分さえ良ければいい、社会なんて関係ない、といった風潮がありますが、それには抵抗していきたいと思っています。公つていうものが何なのか、もう一度見直す社会を作りたいですね。

### 最後に一言

「広がれ愛の力 地球に生きる全ての命に」ということに尽きます。

## 「日本一綺麗な祭りを目指して」

特定非営利活動法人 ヒューマンコミュニケーション 清水一憲さん

地域づくり人物リレーは、県内で地域づくり活動がされている方を取材し、紹介して参ります。第7回目は、主に藤岡で活動されている清水一憲さんにお話を伺いました。



### 😊 やって来て良かったこと

群馬県地域づくり賞奨励賞など4つの賞を授与されたことです。当法人のメンバーのみならず地域全体で受けたものとして、嬉しく思いました。

### 📌 自分をものに例えると

本です。役に立つも立たぬも世の流れ次第。私は地域の中で本としての位置づけで動いているんだなと思います。

### 📖 尊敬する人

『日本憲法要論』(洋泉出版)を書かれた高崎経済大学元学長の三瀬信吾先生です。この本にも感銘を受けました。普段は厳しい先生でしたが、本当に尊敬しています。

